

社会資本総合整備計画

社会資本整備総合交付金

令和02年01月28日

計画の名称	大阪港における安全な交通基盤の形成と地域活性化による持続可能な港づくり（地域活性化）													
計画の期間	令和02年度 ～ 令和06年度（5年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	大阪市													
計画の目標	①アジア諸国の経済発展と産業活動のグローバル化が進展するなか、国際海上コンテナ輸送における西日本のゲートポートとして国際競争力の強化を図るため、港湾機能を拡充する。 ②アジアにおいてクルーズ市場が成長するなか、観光振興を通じて地域の活性化を図るため、クルーズ客船の寄港需要に対応した港湾施設の改良を行う。 ③夢洲の国際物流拠点及び国際観光拠点の形成に伴い新たな人流が発生することから、海上アクセスの確保により大阪市域及び周辺地域への人流構築の更なる強化を図るため、港湾施設の整備を行う。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		1,246	A	1,126	B	0	C	120	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	9.63	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(R2当初)	(R4末)	(R6末)
1	当計画で整備を行う夢洲道路等の整備の割合を、令和6年度末に100%となるよう進める。			
	当計画で整備を行う夢洲道路等の整備の割合を指数とする。	91%	93%	100%
	夢洲道路等の整備の割合（対象6.0ha）			
2	22万総トン級のクルーズ客船の係留に対応する施設整備を行い、令和6年のクルーズ客船の年間寄港隻数を90隻以上となるよう進める。			
	天保山岸壁において、クルーズ客船の年間寄港隻数を指標とする。	62隻/年	70隻/年	90隻/年
	天保山岸壁におけるクルーズ客船の年間寄港隻数			
3	浮桟橋、波除堤、通路・待合所等の整備を行い、夢洲地区における海上アクセスの航路数を令和6年度末に2航路となるように進める。			
	夢洲地区において、海上アクセスの航路数を指標とする。	0航路	0航路	2航路
	夢洲地区における海上アクセスの航路数			

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－
定量的指標の現況値及び目標値：番号2の当初現況値・中間目標値・最終目標値は、R1寄港数実績・R4寄港数目標・R6寄港数目標値を表す。								

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
港湾事業	A02-001	港湾	一般	大阪市	直接	-		戦略	建設	夢洲道路整備	歩道整備等	大阪港・夢洲地区			■	■	■	46	-	—
		H31以前：A02-001																		
	A02-002	港湾	一般	大阪市	直接	-		戦略	改良	天保山岸壁改良	岸壁延伸改良(40m)、泊地浚 渫、付属工	大阪港・港地区	■					375	-	—
		H31以前：A02-002																		
	A02-003	港湾	一般	大阪市	直接	-		戦略	建設	夢洲浮栈橋等整備	浮栈橋(1基)整備、波除堤(60 m)整備	大阪港・夢洲地区	■	■	■	■		705	2.7	—
		新規																		
												小計						1,126		
											合計						1,126			

C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
港湾事業	C02-001	港湾	一般	大阪市	直接	-	戦略	建設	海上アクセス円滑化事業	通路・待合所等整備	大阪港・夢洲地 区				■	■	120	2.7	—
		夢洲浮桟橋等整備と一体的に実施することにより、海上アクセスのさらなる利便性向上を図る。																	
		新規																	
												小計						120	
											合計						120		

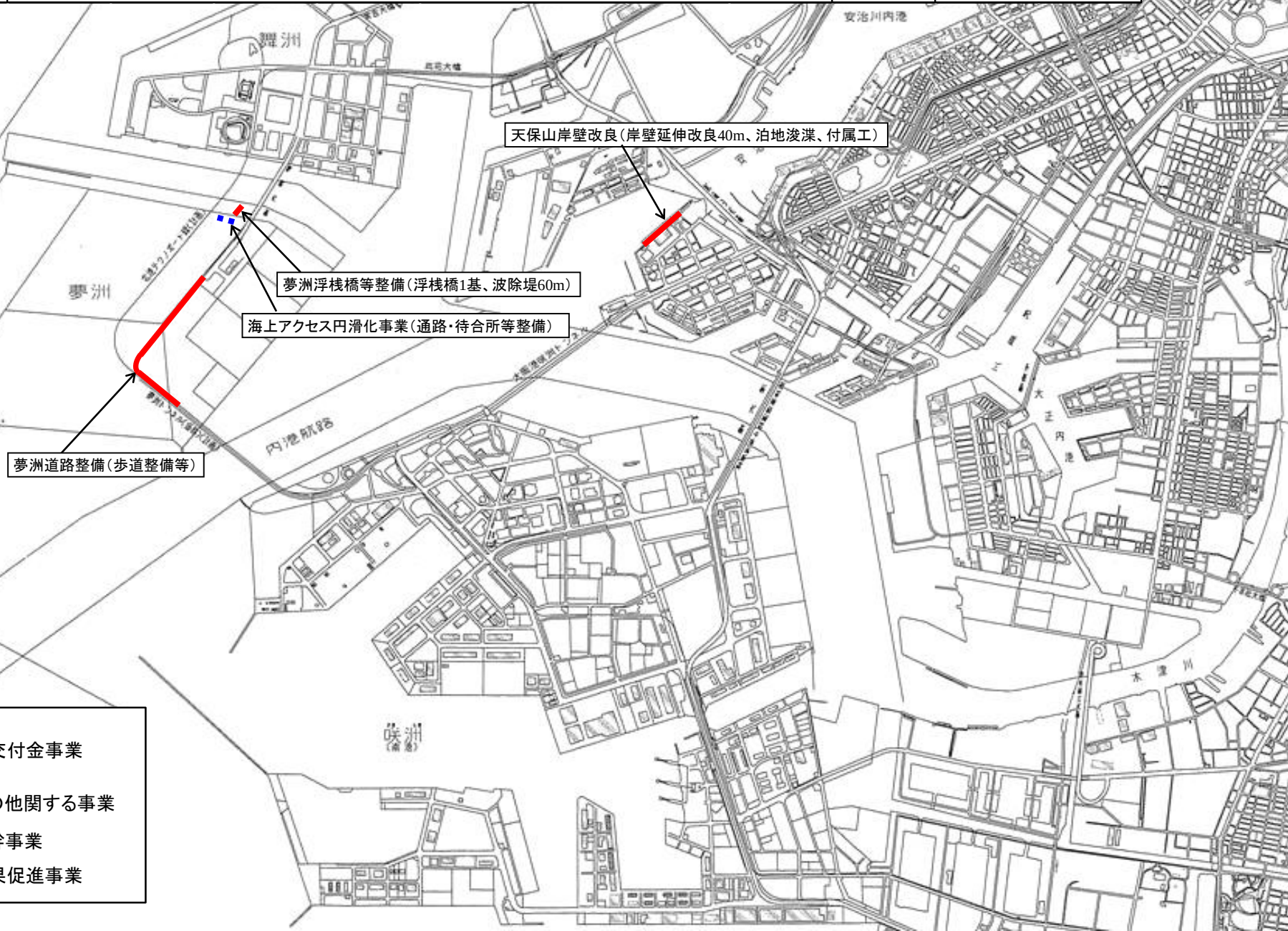
交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R02				
配分額 (a)	0				
計画別流用増△減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	0				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	0				
翌年度繰越額 (f)	0				
うち未契約繰越額(g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

社会資本総合整備計画

計画の名称	大阪港における安全な交通基盤の形成と地域活性化による持続可能な港づくり(地域活性化)		
計画の期間	令和2年度 ～ 令和6年度(5年間)	交付対象	大阪市



凡例

- 本交付金事業
- その他関する事業
- 基幹事業
- 効果促進事業

事前評価チェックシート

計画の名称： 大阪港における安全な交通基盤の形成と地域活性化による持続可能な港づくり（地域活性化）

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性 大阪港港湾計画や社会資本整備重点計画と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題を踏まえて港湾整備の目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 持続可能な港づくりという観点から、適切な整備箇所が位置づけられている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
III. 計画の実現可能性 市民や利用者の意向を踏まえた計画となっている。	○
III. 計画の実現可能性 持続可能な港づくりを進めることは、官民共通の認識となっている。	○